



この園舎で最後の入園式(飯田こども園)



議会だより ここのえ

No.105 2014.4.17発行

3月定例会

- 平成26年度予算 P.2
- 当初予算質疑 P.4
- 常任委員会報告 P.5
- 一般質問 6名 P.7
- わたしのひとこと P.13

発行／九重町議会
 編集／議会広報特別委員会
 平成26年4月17日
 〒879-4895 大分県玖珠郡九重町大字後野上8番地の1
 ☎ 0973-76-3814・FAX 0973-76-3809
 メールアドレス(議会事務局) gikai@town.kokonoe.lg.jp.

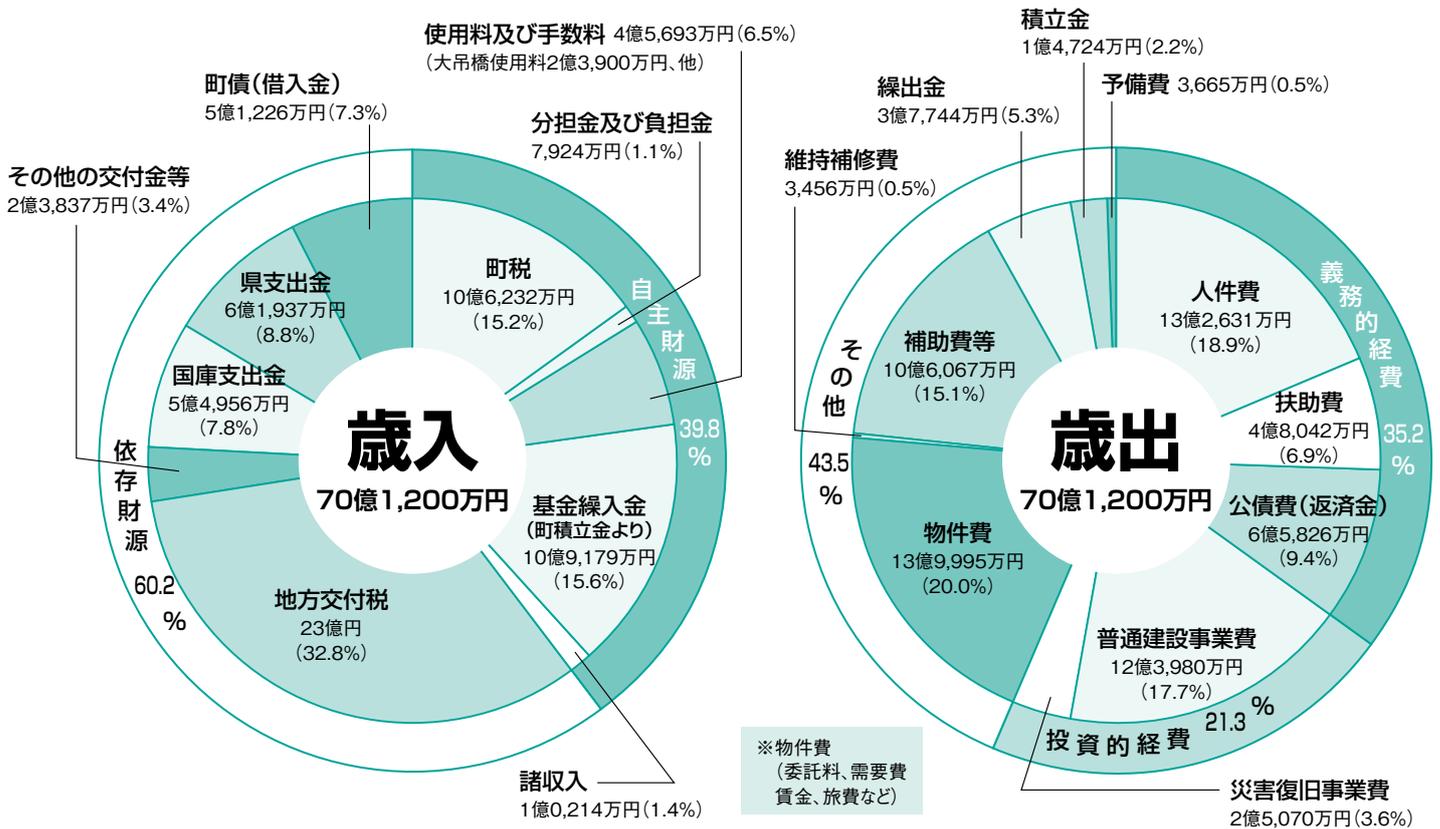
東飯田 藤原なるみさん
 南山田 穴井 智大さん

持続可能な町を目指し 新年度予算決定

平成26年度 一般会計当初予算

70億1,200万円

こども園施設整備事業等の実施に伴い
前年度比**5億2,400万円 (8.1%) の増**



特別会計予算総額 33億0,873万8千円

国民健康保険特別会計	15億6,474万9千円	介護保険特別会計	13億9,110万9千円
水道特別会計	1億1,505万6千円	介護サービス事業特別会計	2,501万4千円
飯田高原診療所特別会計	7,892万6千円	後期高齢者医療特別会計	1億3,388万4千円

一般会計当初予算ピックアップ

飯田こども園設計業務委託料 2,500万円

飯田こども園新築工事費 2億2,600万円

旧中学校解体費を含む

総合こども園設計業務委託料 3,600万円

小学校エアコン設置事業費（3校分） 1,630万円

小学校遊具整備事業費 2,640万円

淮園小学校普通教室耐震改修事業費 2,490万円

スクールバス10台運行業務委託料 5,680万円

スクールバス待合所設置工事費 432万円

町民プール（兼中学校プール）実施設計委託料 1,560万円

小規模集落対策補助金 1,140万円

〈補助率〉 県 75%、町 20%（地元 5%）

〈限度額〉 県 900万円、町 240万円

この補助金による事業は、「里のくらし支援事業」というもので、高齢化、過疎化が進む小規模集落等（対象地区107行政区）の活性化を支援する事業。（3年まで継続可能）本年度は、野倉地区、後河内地区、宝泉寺地区が事業実施予定。

松木ダム水力発電事業負担金 3,775万円

建設工事に対する町負担25%分

ケーブルテレビ機器更新事業費 6,979万円

九重ふるさと祭り補助金（第20回記念） 500万円

町制施行60周年記念事業実行委員会補助金 100万円

地区協議会補助金 1,700万円

4地区協議会へ、昨年度より活動費を50万円ずつ増額

富迫集会所建設事業費 3,462万円

〈財源〉 特防交付金	2,000万円
一般財源	769万円
地元	692万円

湯坪基幹集落センター改修事業費 1,366万円

宝泉寺交通センター改修事業費 500万円

宝泉寺公共駐車場用地購入費 560万円

周遊定期観光バス運行業務委託料 550万円

豊後中村駅着の「YOKARO」バス乗客等を対象とする町内周遊ツアー

原木椎茸種駒購入費助成 1,800万円

県と合わせて、1駒1円50銭助成（3万個以上が対象）

有害鳥獣捕獲報償金 1,248万円

「百年の杜」整備事業委託料 290万円

宝泉寺地区の広葉樹林化約10,000㎡・散策路約500m整備

地域活力づくり総合補助金 500万円

野上祇園山車改修

町民プールの計画内容は『両方の施設について検討』

計画性を

Q 町民プールの計画であるが、温泉館とプールの併用は、湯量も含めて無理では。

A 調査をして検討するが、両方の施設の併用は無理と考えている。

Q 公有財産として宝泉寺駐車場を購入する予定であるが、隣接する交通センターの利用計画が十分では。

A 宝泉寺旅館組合が計画し実施する予定である。主なものは、物産販売や農産物の販売等である。

Q 有害鳥獣は報償金があるが、猪と鹿の差は。

A 猪は、8千円。鹿は、1万円に国費で2千円加算されるので1万2千円になる。

Q 社会教育施設の工事費負担金で、書曲三のエアコン設置の理由は。

A 書曲三の集会所は、学習会等で多く使用されており、夏の暑さ対策として必要と考えている。

安全性の確保は

Q 環境保護協力協定による中国派遣事業であるが、中国と日本の政治的不安がある中で、中学生の安全は確保できるのか。

A 安全性は重要な問題であり、十分配慮する。

Q 環境保護協力協定の内容は、現状でも変わりはないのか。

A 協定内容に変更は無く、民間で出来るものは民間で、行政で出来るものは行政でやる。

周知の徹底を

Q 小規模集落対策補助金であるが、周知が徹底されていないのでは。

A 広報やホームページ等で周知している。不十分であれば、周知について検討する。

人事案件 2件

教育委員の任命に同意

佐藤 住子さん
岩の上



固定資産評価審査委員選任に同意

佐藤 秀信さん
鹿伏



2/3

大分銀行へ おでかけ議会

和やかな意見交換が行われ、地域における銀行の役割、議会のあり方など、様々な意見が交わされました。

交わされた意見

★九重町の観光資源は大きいですが、日帰り客が多く、観光地間の連携を進めてはどうか。

★玖珠町の運動公園内の、こども広場、利用者50%が九重町民と聞く、町内に欲しい。
★職場が少ない、企業誘致を望む。

★大吊橋など、可能な観光地を期間限定で、ライトアップし宿泊につなげてはどうか。

★女性が好む温泉施設が欲しい。

★町外者に対する情報発信を進め県外者だけでなく県内者にも誘客しては。

★玖珠町の民間保育園に比べ、不利な点が多いのではないか。



活発な議論が交わされた「おでかけ議会」

審査報告

議案

13件

陳情

2件

可決された案件

次の三路線を新たに町道認定

〔滝上線〕

滝上第3橋の架け替え工事が完了したことから終点箇所を変更して認定しました。

〔上の原2号線〕

(木納水) 上の原線より集落までの115mを認定しました。

〔須久保2号線〕

須久保線より県道田野庄内線までの141mの区間を認定しました。

〔条例改正〕

職員給与の条例改正

現行カット率を4月末日まで延長し、5月以降は4月までのカット率から3%を減じた率の給与の減額を実施するものです。

男女共同参画推進条例の制定

性別に関わりなく個性と能力を発揮し、社会に参画できるよう条例を制定し男女共同参画の推進を明確化するものです。

特別会計設置条例の一部改正

同和住宅資金貸付特別会計は、今後においても貸付の見込みはなく、特別会計で処理する必要がなくなったために本特別会計を廃止するものです。

消防団条例の全部改正

消防組織法により現行の運用に合わせた条例の見直しを行うため、改正するものです。

九重町過疎地域自立促進計画の一部変更

計画中に「大分県畜産公社施設新築事業」を加えるもので、大分県畜産公社が老朽化した食肉加工センターを新築し、食肉処理の輸出対応が可能な衛生基準への適合理化や食肉の販路拡大を図るためのもので、(九重町の負担は約1千9百万)畜産振興を図るため必要な施設であることから計画の変更を行うものです。

九重町まちづくり基本条例の一部改正

住民、議会、行政が一体となり「協働のまちづくり」を進めることを目的に制定しているが、「地区協議会」の位置づけをより明確にするために改正するものです。

九重町ケーブルテレビネットワーク施設条例の一部改正と簡易水道事業条例の一部改正

消費税率が4月より8%に改正されるため、使用料を変更するものです。

国民健康保険税に関する条例の一部改正

医療費の増大により国保財政も厳しい運営を強いられていることから、税率の改正を行うものです。

土地基盤整備事業に関する補助条例の一部改正

農業用水路及び農牧道の新設及び改良工事について、後継者不足や高齢化による農業者人口が減り、耕作放棄地等が増えているため地域の実情に合わせて要件を緩和するものです。



農業用水路等の補助要件を緩和

教育民生観光常任委員会 審査報告

議案
5件
陳情
1件

みなさんの陳情は
こうなりました。

可決された案件

九重町指定介護予防支援の事業に係る申請者の要件並びに、人員及び運営に関する基準等を定める条例の制定

介護保険法が改正されたことに伴い、介護予防支援に関する事業所の人員や運営、介護予防のための支援の方法等を市町村の条例で定めるものです。

九重町地域包括支援センターの職員に係る基準及び当該職員の員数等を定める条例の制定

介護保険法の改正に伴い、地域包括支援センターの職員の員数や運営について等を市町村の条例で定めるものです。

九重町温泉館、ふれあいプラザの指定管理者の指定



温泉館

平成26年4月1日以降の1年間にかかる当該施設の指定管理者に、夢グループ企画（代表者、日隈博美さん）を指定するものです。

社会教育委員条例の一部改正

社会教育法が改正されたことに伴い、社会教育委員の委嘱に関する基準を市町村の条例で定めるものです。

町立学校の設置に関する条例の一部改正

平成17年から休校となっていた淮園小学校栗原分校を廃止するために条例改正を行うものです。



廃校となる栗原分校

陳情

中村上区長 時松峰雄氏からの「町道認定を求め陳情」

現在行われている県道飯田高原中村線の改良工事（豊後渡し工区）の完成時には、梅木津留の交差点が現道と新道に別々にできることから、周辺住民の出入りに不安が生じたり5戸の民家が利用する道路で陳情の趣旨は理解できるとして採択しました。



中村上（梅木津留）の道路視察



湯沢の道路視察

湯沢区長 飯田祥治朗氏からの「町道認定を求め陳情」

大字田野字湯沢に位置する町道黒子線の終点から町道無田硫黄山線の間、約250mで現在私道（二部里道）として管理されている道路で、これまで管理者が改良工事を行い現在に至っており、区間内には防火水槽もあり有事の際の対応を始め周辺住民の生活道であることから採択しました。

大分県保険医協会会長 松山家久氏からの「四国電力伊方原子力発電所再稼働を考え直すこと及び、脱原発に向けた政策の実行を求めた国への意見書提出に関する陳情」

東日本大震災により原発は地震や津波に対して脆弱であるということが改めて証明され、一旦事故が起きれば人的被害に加え、漁業、農業、商業、観光業など住民が受ける被害は甚大なものとなります。取り返しがつかなくなります。町民の健康な暮らしを守り、次世代を担う若者の健やかな成長を願う立場としても、「四国電力伊方原子力発電所の再稼働を考え直すこと」及び「脱原発に向けた政策の実行」について強く要望する陳情の趣旨は理解できることから採択しました。

大分県保険医協会会長 松山家久氏からの「四国電力伊方原子力発電所再稼働を考え直すこと及び、脱原発に向けた政策の実行を求めた国への意見書提出に関する陳情」

ずばり町政を問う

6人の議員より一般質問



藤原

三治

こども園計画

地元要望もあり、時期を見て対応する

● 設計業者選定 地元業者にも

藤原 設計業者の選定にあたり、実績・規模など参考にするのは理解できるが、地元の設計事務所にも機会を与えるべきでは。

町長 建築士、設備士、技術士など様々な保有能力を参考にし、いざという時に対応できる条件をもとに選考している。

いろいろなアイデアもあるので地元業者の参加については今後の検討材料としたい。

● 総合こども園 予定地の対応

藤原 建設予定地の住民は、生活環境の変化に心配しているが、対応は十分か。

町長 新たな道路整備、生活排水、これらの条件整備に対する要望がある。

26年度中には計画に入り農業振興事業から除外される時期を待つて、アクセス道の整備を行う。

定住・結婚支援は十分か

条例に基づき推進する

● 町の魅力再発見 伝統掘り起こし 事業とは

町長 町の文化資産、自然遺産の調査、資料作成、伝統芸能、工芸品の掘り起こしを実施していく。

具体的には、データを集約、町のガイド育成、魅力を発信する郷土検定、観光体験ツアー等を進めていきたい。

藤原 事業が、子どもたちにも、町を誇りに思い、そして魅力を発信できる、そんな、子ども達を育成できるように、推進して欲しい。

● 婚活支援 充実を望む

藤原 町は婚活に力を入れていますが、他の自治体を見ても、もっと力を入れるべきだ。



こども園にはじける笑顔

町長 結婚・出産祝金、定住促進などの補助金制度は、「九重町いきいきふるさと若者定住促進条例」に基づいて実施している。若者定住が不可欠なことは、承知のとおりであり、引続き、情報発信の強化、PRに努めていきたい。

藤原 40代、50代の結婚支援を強化すべきだ。
町長 難しい問題で様々な事情もあり、「九重しあわせ応援隊」も、各企業へ働きかけようとしているが、町民のみならず、結婚を支援する気になって、御協力を賜りたい。

町民の生命・財産 自然災害から守れるのか



佐藤 明郎

全体的な計画の見直しを行う

● 自主防災組織 要支援者対策

佐藤 25年度に普及する
とした、自主防災組織と
は何か。

町長 町民同士が、避
難、誘導、救出等を行う
組織であり、行政区と同
じ数ある。

佐藤 高齢者などの、避
難時要支援者に対する、
支援プランを作ると約束
しているが、整理されて
いるのか。

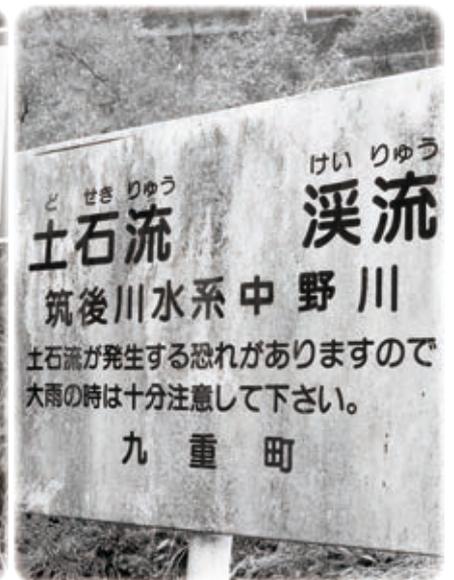
町長 一部あるが、完全
なものではない。

佐藤 町内に要支援者は
六百人近く居る。確実に
支援に行く者が決まっ
てないのは二次災害も含め
問題だ。

町長 本人が同意された
部分は、消防団、区長と
情報を共有している。

● 避難指示等の 対応は

佐藤 被害を最小限にす
るため、避難が重要だ。
避難指示等、誰を対象に



有効活用が望まれる表示板



出すのか。
町長 具体的には一番わ
かりやすい行政区単位で
出す。

佐藤 行政区単位では逆
に危険性がある。

町長 状況に応じて、よ
り分かりやすい出し方に
努める。

佐藤 私の調査では、町
内、危険急傾斜地74ヶ
所、540戸ある。この

データを活用しないのか。
町長 様々な周知は行っ
ているが、個別の対応は
十分ではない。

佐藤 「お宅の家は危険
箇所に指定されているの
で積極的な避難が必要」

本気で町民の生命を守る
のなら、これくらいやる
べき。

町長 担当課に指示をし
て対応させたい。

● 町指定避難所 大丈夫なのか

佐藤 町が指定した避難
所、危険性も含め、問題
がある。

町長 見直しを行う。

佐藤 避難中、道路が決
壊する危険性も高い。場
所によっては、各地区公
民館あたりを指定する方
が安全ではないか。

町長 確かに考えられ

る、一時避難所的に考え
たいと思う。

● 本気で取り組み ましよう

佐藤 住民の自主避難が
最重要だが、予期せぬ災
害に、今の体制で対応が
十分とは、とても思えな
い。

町長 自主防災組織、避
難体制、危険家屋に対す
る周知も含め、対応する。



地域の命は地域で守る

自主防災組織の結成へ動き出した下右田（東）地区



小川 寛巳

このえ学園構想 理解しにくい

現場の声を大切に、議論を広げたい

● 小学校統合の誤解もある

小川 学園構想を打ち出し、小学校統合の誤解も生まれている。内容が解りにくい。

● 教育長

具体策はまだない。トップダウンでなく、現場から計画を立てる必要がある。

今ある各学校が統一した意識を持つことによつて、町内全ての学校を、ひとつの学園というイメージを目指す。



このえ緑陽中学校体育祭の様子

小川 トップダウンを避けたいと言いながら、推進委員会で進めるといって、整合性がない。

● 教育長

専門家の意見で進めるのではなく、現場の先生方の議論を求め、現場の先生方の力を借りて進めているのが、推進委員会である。

● 中身が重要

小川 小学校同士、小学校と中学校の連携など、中身の議論が重要であり、中身で共通認識をす

べき。
教育長 どういう小中の連携があるのか、課題や問題点についても整理し、共通理解を深めていただき、早い時期に具体的なものを出して、地域も含めた議論をしていく努力をしたい。

社会教育・家庭教育の充実

定数の中でがんばっていく

● 現人員体制で充分なのか

小川 殺伐とした事件、事故が多発する中、改めて社会教育、家庭教育の重要性を感じる。今の人員体制で十分か。

● 教育長

職員の充実もしたいが、定員管理の中で、どこの課も非常に厳しい状況を理解してほしい。町長部局と協議し、社会教育計画にそつた努力をしていきたい。

● 小川

職員定数もあり、

● その他

森高と玖珠高が再編される、新設高校。26年度、入学生も定員を割り、将来的に、玖珠郡に高等学校が存続できるのか。行政に何が出来るのか、強いリーダーシップを強く求めました。

職員は限界である。できる部分については民営化を打ち出すべきであり、職員も課の垣根を越えた協力も望みたい。



東飯田公民館の「男の料理教室」

高校再編 大丈夫か



佐藤 博美

検討を続けるが住民意識も必要

● 新設高校 行政にできる支援は

佐藤 郡内高校は今年度も入学者が減少、再編後も成り立つのか心配だ。様々な取り組みの結果をふまえ、今後何ができるのか。

教育長 今後は、中学と高校の連携が重要だと考える。両町協力して、新設校の存続にむけた取組みを強化する。

佐藤 町にできる支援策をどう考えているのか。
町長 町内の全高校生の



平成25年度全国高校総体ホッケー競技

● 住民の意識向上も

町長 両町協議会で検討するが、今までの取り組みを顧みると、地元住民の高校存続に対する意識の向上も必要である。

農業振興米作りの生きる道は

可能な限りサポートしていく

● 人・農地プラン 推進策は

佐藤 今年度は、人・農地プランをどう進めるのか。

町長 制度自体、農地の集約が支障となり、厳しい現実がある。今年3地区の実績、8地区の協議が続けられている。

今後、農業委員の協力も頂き、中山間事業の協定集落53地区を中心に拡充を図りたい。

佐藤 集落ごとに、話し合う場を推進すべきだ。現実に辞めたい人、拡大したい人に行き渡っていない。

町長 各集落に向いて、説明会も行いたい。制度以外の方法で、組織的な助け合い体制づくりも大切。集落の枠を越えることも時には必要である。

● 米農家の 生き残り策は

佐藤 特別栽培米の取組みは。

町長 販売戦略が重要。差別化も含め、独自性をもったPRが必要。

佐藤 国の施策では生き残れない。

特別な栽培方法で、高価な差別化できる作り方に行政は支援すべき。

● その他 職員の接遇対応 徹底教育を

町長 可能な限りの取組みは行う。

職員の町民に対する、接遇対応が悪いことを指摘。

徹底した改善を求めました。



親子3代 受け継がれる稲作

公共交通有効活用 観光振興策



江藤 一幸

地元の要望もあり検討を続ける

● コミバス、スクールバス 有効利用をすべき

江藤 多額の予算を要する、路線バス補助、コミバス、スクールバス…。特にコミバス、スクールバスについて、有効活用の手段もあるはず。調査、研究すべきだ。

町長 地域の要望もあり今後も検討を続ける。

● 観光振興ファン倶楽部

江藤 ファン倶楽部の中心は。

町長 これからの計画だ。強力な組織が必



利便性向上のため玖珠町に乗り入れたコミバス

要。行政がリーダーシップを発揮すべきだ。

町長 地味であっても、長い期間をかけ、じっくり進めていきたい。

● 町内周遊バスは

江藤 反省点と成果を上げる手法は、どうする。

町長 周遊コースの見直し、周知不足が課題。

今後、JR客の呼び込みを含め時刻の見直しを行い、一日10名、2割宿泊を目標とする。

※福岡在住の60〜70才代の女性利用者が多い。

農業振興策

バックアップしていく

● 経営安定策を

江藤 特産品の販売、具

町長 行政の力だけでは限界がある。

江藤 みんなの気持ちも大切。専門農家の経営安定策は。

町長 有効な制度をうま

く活用したい。

厳しい中にも、可能性はあると思う。

行政にできるバックアップはするので、チャレンジもして欲しい。

● 電気柵・

ハウス事業は

江藤 広く町民に行き渡るようにすべき。

町長 電気柵は希望者全員に対応している。希望者多数の場合、不足額を、みんなで負担して頂いている。

活きいきハウスは、高齢者のみでなく、小規模農家むけに拡充、予算も増額し、県の補助を受けられない人たちを対象としている。



ハウスの中で家族の絆も育ちます

教育委員会制度の改革(案)



日野 康志

不安も感じている

● それぞれの役割とは

日野 教育長と教育委員長の役割分担は。

教育長 教育委員長が教育委員の最高責任者。教育長は常勤にて、教育委員の指揮監督のもと、事務的な責任者である。

● 首長の権限強化

日野 教育委員会の改革案による、首長権限の強化を、どう考える。

教育長 国の案では、教育委員長と教育長が兼任となり、弱体化も心配。首長の関与が強まることが予想される。

日野 教育に対する、政治的な影響をどう見る。

教育長 政治的中立が原則。今は一定程度守られているが、法案の内容によっては不安を



首長権限の強化でどう変わるか学校現場

感じる。守っていく努力も必要。

● 教育委員の報酬は

日野 責任の重さからみると、報酬が安すぎる。

町長 玖珠と歩調を合せ、また、教育委員だけ見直すことはできない。各種委員も同様であり現状維持と考えている。

日野 教育委員の仕事量、責任の重さは特別なもの。本場に公平といえるか。再考すべきである。

商工観光・自然環境の対応は

限られた人員で努力する

● 夢大吊橋の目的は

日野 入場者を増やすこと、それだけが目的か。

町長 本来の目的は、地域振興である。観光ルート・地場品販売・雇用促進、いずれも地域振興である。

日野 宿泊客の増加につながっているのか。

町長 8年経過、800万の入場。宿泊にはつながっていない。対策が必要。

日野 今、判明したことではない。対応したのか。

町長 九州オルレによって、4〜5時間の滞在型の可能性を探りたい。行政がやるべきことはやるが、それぞれの業者、周辺施設の努力も必要。



観光客で賑わう九重“夢”大吊橋だが…

● 自然エネルギーの有効活用は

日野 菅原の地熱、野上の太陽光、有効活用をどう考える。

町長 地熱については、水の確保が厳しく、熱水の活用は厳しいことから売電による収入となる。太陽光については、児童・生徒を中心に、環境教育に有効利用したい。

日野 商工観光、自然環境、職員数も含め、対応できるのか。

● その他 行政と町民の距離感

町長 これ以上減らせないが、定数もあり増員はできない。事業も多いが現状で行く。

その他に、行政は、他団体組織との連携を主張するが、町民と行政の間に距離感があることを強く主張し、地域住民との連携の必要性を質しました。

あたしのひとこと

放課後児童クラブ

東飯田
藤原なるみさん



東飯田児童クラブも今年で8年を迎えようとしておりますが、かかえる問題というか悩みは8年前とさほど変わっておりません。

毎年の予算のことにしても児童が何人入ってくるかわからない中で、計画をたて、19名以下なら一人でみないといけないこと、実際一人では、とても不安です。制度的な規則があり行政としても厳しいことは理解できますが、こんな心配をしなくてすむ様にして頂きたいです。

子ども達も同様、8年前と全然変わってない様な気がします。仕事の都合で預けられ、子どもだけでなく保護者に対してもとてもかわいそうだと思います。私たち指

導員が、家族の様に接してもその場しのぎで、やはり、親にまざるものはなく、親が一番なんです。親が子育てができる、働きにくいなくても育児ができる様な社会になればいいと思います。今は、私たちが少しでも、その手助けになればと思っております。お母さんたちの悩みに、耳をかたむけて、子どもたちのためになる様努力をしているところです。



「放課後も安心してね」おうちの人へ



初出荷を待つホウレン草

近頃の心境

南山田
穴井 智大さん



今年の2月7日に行われた、大分県農業青年プロジェクト実績大会において、まさかの最優秀賞をいただいでしまった。賞をもらえたことに対してはとても嬉しい。しかしその反面、九州大会出場という大きな荷を背負わされた。県プロで肩の荷がおりると思っていたのに、また大会が行われるまでの間の圧迫感と、いざ発表する時の手が震える程の緊張を味あわなければならぬと思うと憂うつでしかたない。けれど選ばれた以上やるしかないのです。九州大会が最後と思いき、悔いの残らないよう頑張りたい。

さて、最近の私はホウレンソウの管理をしている。4月中は値段が安いので5月になってから出

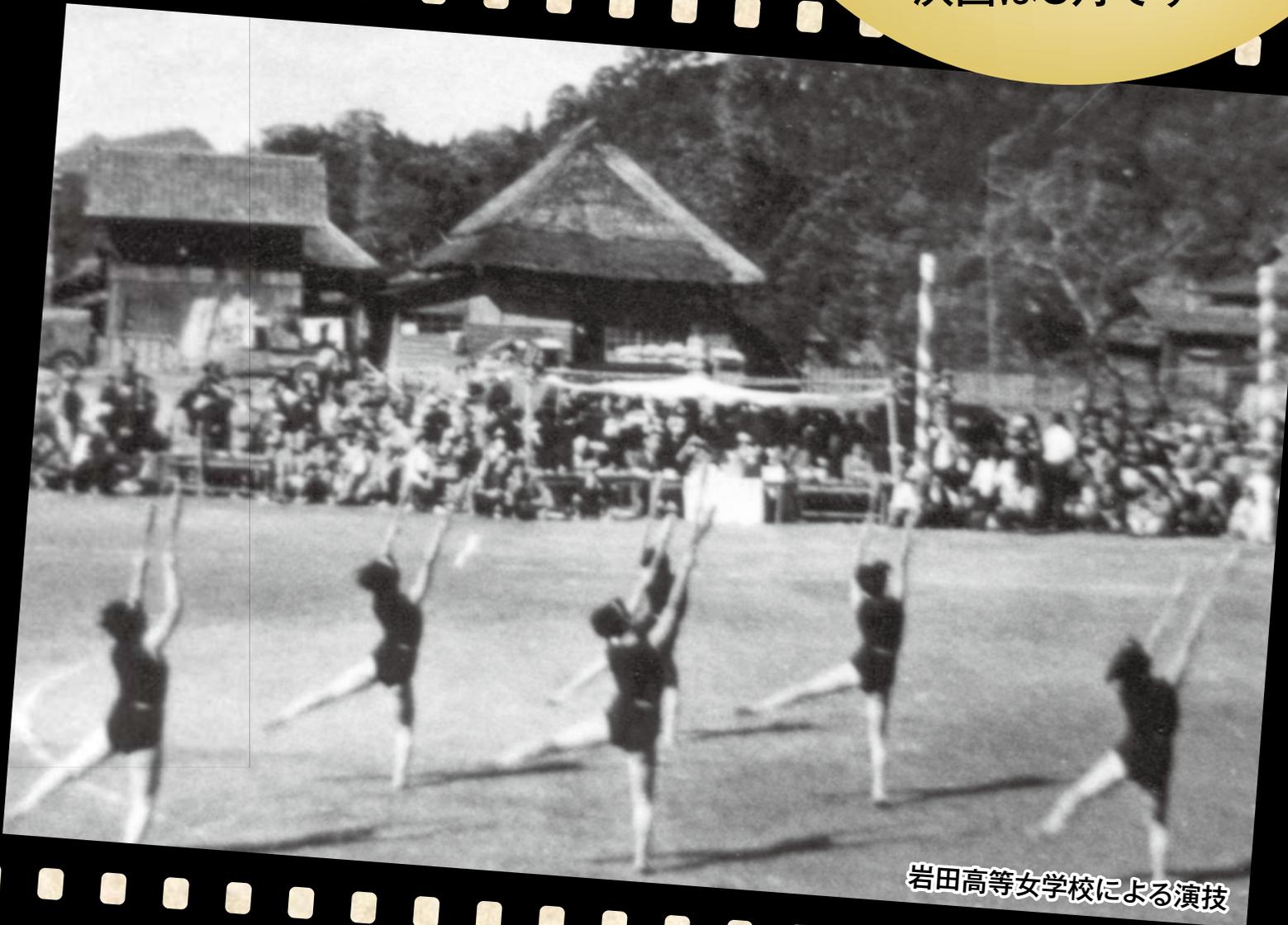
荷したいのだが、急に暖かくなってきた。このままいくと2週間もしないうちに出せるだろう。それを食い止めるために、ハウスのサイド入り口を全開にして、夜は寒をあてる作戦をとったが、最近夜も寒くならない。欲は言われないが、値段の安い時はできるだけさげたいものだ。なので、「どうかホウレンソウ、4月の20日位まで成長しないでくれ。」という思いでいっぱいだ。それと、自分で種まきからしたネギの苗を育てている。初めてのことでどうなるかわからないが、今の所順調。ネギは葉を切らないといけないということとで、ピーバーで切るうと思つたが病気になる嫌なので、ハサミで丁寧にカットした。相当な時間を費やしてしまった。これが10a分で良かったと思う今日この頃。生き物を育てることが好きで始めた農業。色々難しいことはある。なかでも、自然相手というのが一番難しい。けれど、それに匹敵する難しさがあるとしたら親相手だ。まあ何にせよ上手く攻略していきたい。

夢は大きく、世界一の百姓。前進あるのみの心意気でやっていたい。最後に一言「夢は寝てみるものではない、実現させるものだ。」と自分に言い聞かせ、朝が苦手な私でした。

昭和33年
第1回九重町民体育大会
(東飯田中学校グラウンド)

傍聴へ
どうぞ

次回は6月です



岩田高等女学校による演技

議会だよりについて

ご意見をお聞かせください。【議会事務局：76-3814】

編集
後記

◆ 連日、熱戦が繰り広げられたソチオリンピックも、無事閉幕致しました。メダルを手にした選手、惜しくも日頃の実力を発揮出来ず涙する選手と、結果はそれぞれ違ったものではありましたが、オリンピックと言う舞台上上がるまでのアスリートとしての、苦悩と努力を考えると、本当に一人・ひとりに感動させられました。何か目標をもって、それに向かって努力を惜しまない選手の姿に、全ての選手に心から拍手を送りたいと思います。

◆ 九重町では、3月議会において平成26年度一般会計予算70億1千2百万円、特別会計予算32億8千372万円が上程され可決しました。今年度も、町民の皆様へ替わり行政をチェックしていく所存です。今後皆様のご意見をお聞かせ下さい。

池部 俊慈

- ・ 広報委員長 日野 康志
- ・ 副委員長 佐藤 明郎
- ・ 委員 井上 里子
- ・ 委員 小川 克巳
- ・ 委員 佐藤 博美
- ・ 池部 俊慈